



2014年国際薬膳師(士)・国際薬膳調理師 合格証書授与式が行われました



去る6月16日、今年の4月に行われました国際薬膳師(士)・国際薬膳中醫師資格認定試験の合格者への認定証書授与式が、北京の頤和園内、聴鸚館にて行われました。

今年は92名もの国際薬膳師(士)・国際薬膳調理師が誕生いたしました。今回研修旅行に参加致しました合格者の内8名の皆様はその代表として、中国薬膳研究会会長から直接証書を授与されました。

改めて、今回の認定試験に合格された皆様、おめでとうございます!



2014年 北京研修旅行

2014年6月15日(日)～20日(金)

【5泊6日】

北京旅行について

第19期中医薬膳師コース卒 早乙女 晴子

6月16日北京市内から車で約30分の世界文化遺産である北京頤和園内の聴鸚館で行われました「日中薬膳学術シンポジウム」「国際薬膳師証書授与式」に参加させていただきました。日中薬膳学術シンポジウムは、中国薬膳研究会12名・本草薬膳学院・日本国際薬膳師会4名の先生方と今回参加した14名の国際薬膳師によりシンポジウムとして開催されました。中国薬膳研究会会長の沙鳳桐先生から歓迎のお言葉から始まりました。両国から「薬膳と健康」について、また中国から「家庭養生薬膳制作の基本知識」、日本から「中西医结合の薬膳」について発表がありました。シンポジウムを通して現代人の健康維持には、「観察」と「調和」が大切であると感じました。「観察」とは、その人にもって生まれたもの、これまでの生活、現在の生活を知り、食事をとる人の身体状況を見極めること。「調和」とは、その身体状態にもっとも適した食材・中薬を準備し、おいしく提供することが、継続を促すことであることを学びました。また、「中西医结合の薬膳」のご発表からは、中国伝統医学の中で培われた中薬・食薬の考え方と現代栄養学の融合にこそ、現代の複雑な時代に生きる我々の健康を守る方法があるのではないかと提言には、薬膳からの知識を日常生活にどのように取り入れるか考え始めたことでしたので大変感銘を受けました。中国でも2013年に健康サービスの中で求められていることとして「治療より予防」の考え方が国から示され、ビジネスチャンスとしても注目され技術開発によって新しいものとの融合を大きく期待されているとのことでした。最後に中国薬膳研究会の皆様から日本国際薬膳師会10周年を記念して掛け軸が贈呈され、中・日両国の薬膳会の益々の発展を祈念するお言葉をいただきました。先生方のご講演は、国際薬膳師として証書を拝受させていただきました。さらに学びを深める中で大きな目標を明示いただきました。その後、皇帝の台座が中央におかれ、由緒ある調度品で飾られた「聴鸚館飯荘」で、西太后が食したとされる満漢全席をいただきました。ひとつひとつの料理が非常にきれいでかつおいしい薬膳料理でした。一品ずつ説明を受けながら堪能し、懇親を深めることができ、大変充実した一日となりました。中国薬膳研究会、ならびに日本国際薬膳師会の先生方、ご参加の皆様、本当にありがとうございました。